

日本聖公会
全国青年ネットワーク
ニュース Vol.45 2015.11.25



【写真】抗日独立運動家たちが拠点としていた一松亭を望んで。

第8回 日韓聖公会青年セミナー 2015

日程：2015年8月10～15日 場所：中国（延吉、竜井、白頭山、等）

日韓聖公会の青年たちがフィールドワークで学んだ中国の歴史から、東アジアの平和について考えました。

昨年2014年の日韓聖公会協働交流30周年、そして今大会を経て、今後も日韓聖公会青年の交わりを続けていくこと、共に平和を築いていくことを心に誓いました。聖公会に携わる全ての青年たちの問題として受け止めるため、2名の参加者より報告して頂きます。

戦後70年の年に中国の地で感じたこと

（京都教区^{おおすみ さえこ}／大隅 彩恵子）

今大会には、青年・スタッフを合わせ、日本側12名、韓国側14名が参加しました。朝鮮族が住民の半数以上を占め、そして、日韓の歴史上重要な中国東北地方に位置する都市、延吉市^{えんきつし}を中心に探訪し、視点は異なりましたが、日韓の青年が共に多くを学ぶことができました。

2日目には、中国・ロシア・朝鮮民主主義人民共和国の三国の国境の地である、琿春市^{こんしゆんし}に、5日目には、図們江越^{ともんこう}しに朝鮮民主主義人民共和国を望むことのできる国境の地、図們市に訪れました。私は、国境の地に立ち、ただただ虚しさを感じました。私自身、国境を初めて目にしましたが、鳥たちは空を自由に行き来し、自然の中には国境

という線は見えませんでした。それなのに、人は神様が作られた世界に国境を引き、それを奪い合っています。さらに、朝鮮民主主義人民共和国側の建物や自然が本当に廃れていました。同じ地球にあるのに、川を一本挟んだだけで、こんなにも景色が変わってしまうことに、ひたすら驚いてしまいました。

そして、4日目に尹東柱^{ユンドンジュン}の記念館と生家に赴きました。尹東柱は、戦時中、学習の場を求めた結果、同志社大学在籍中に逮捕され、終戦を半年後に控えた二月に福岡の刑務所で獄死を迎えた、時代に翻弄された人物です。私は、正直名前すら聞いたことがありませんでしたが、韓国では必ず習う人物の一人だそうです。同じ歴史でも、その国によって、視点が変わり、取り上げる内容が異なります。その違いの中で私たちはどのように生きていくか、非常に考えさせられました。歴史は変えることのできない事実です。その事実としっかり向き合うことが私たち青年にも必要だと感じました。

今回、戦後70年を迎える年に、旧満州国であり、日中戦争の地である中国東北部に行き、私には未だに拭い切れていないモヤモヤが残っています。私たち青年が、もっと日本の侵略の歴史について学ぶ必要があります、そして、日本人として過去ときちんと向き合っていかなければならないと感じました。しっかりと向き合い、それから、何ができるかを考え、二度と戦争という悲惨な歴史を繰り返さないよう、何か行動をおこす。私たちのグループが閉会礼拝で歌った聖歌417番「あなたの平和の器にしてください」の通り、神様の愛を伝える者になれるよう、平和を求めていきたいと感じました。

最後に、これらの多くのことに気付く機会を与えられた、日韓青年セミナーに参加できたことを心から感謝します。また、今後もこのような日韓交流の機会が増え、その機会に参加する青年が増し加えられますように。

第8回日韓聖公会青年セミナー2015に参加して

(京都教区／^{しのだ はるや}篠田 晴哉)

セミナー全体を通じて最も感じたことは、「繋がりへの感謝」についてです。今回のセミナーを通じて、日韓両国の多くの方に出会うことができました。それは日常生活では容易ではない出会いであり、今後の人生に大きな影響を与える出会いであったと思います。今回出会った方と共に平和について考え、共に生活することで、強い繋がりをつくることができましたと感じています。今後もこの繋がりを絶やさず、深く広く耕していくことができればと思っています。

また、セミナーのプログラムでは、尹東柱の生家を訪れた際のグループ討議が最も印象に残っています。討議の中で、抗日独立運動を考える際の日韓両国のスタンス、考え方、知識等、多くの違いがあることを実感しました（勿論、全員にそのような違いがあるとは思っていません。少なからず、自分の中では意識面での違いがあるのではないかと感じたまでです）。日本人の私が、抗日独立運動について教科書で学んだ通り一遍のことしか知らないのに対し、韓国の青年は問題の核心がどこにあり、どのようにアプローチしていくべきなのか、自分なりの考え方を持っているように思えました。

東アジアの平和について考えることを目的にセミナーに参加したにも関わらず、このような違いがあることに恥ずかしさを覚えるとともに、今後、平和について真剣に考えていく必要があると感じました。

抗日運動について、日本人としてどのように向き合い、感じ、赦しを考えるのか。セミナーの6日間という期間では到底答えの出ないテーマであり、それは今後もしばらくは同じではないかとも感じています。しかし、今回のセミナーを発端に感じた東アジアの平和について、思考、対話を続け、長い時間をかけてでも、自分なりの考えを示すことができるようになりたいと強く感じました。

CCEA Youth Forum

—アジア青年大会—

2016年7月26日～8月1日に西マレーシア・クアラルンプール近郊において、アジア青年大会が開催されます。

アジア各国から約100名の聖公会の青年・スタッフが集まり、ともに聖公会が大切にしてきた宣教の5指標についてフィールドワークやディスカッション等を通して学びます。

日本から代表として参加される青年のうち、今回は3名の方から大会へ向けてのメッセージを貰いました。



中部教区／^{ごとう みぎわ}後藤 渚

「世界に触れたい」「自分と向き合いたい」

この2つが、大会に参加しようと思った理由です。

環境や文化の違う人が何を思い、感じているのか。日本にいただけでは気付かないこと、分からないことに触れて、今までと違う視点で世界が見えるようになると良いです。

大会では、自分の意見を言う機会が度々あると思います。ですが、私は考えを人に伝えるのが苦手です。何とかしたいと、きっかけを探している時に大会のことを聞き、参加を決めました。

今まで大嫌いだった英語も、これを機にちゃんと向き合おうと、大会に向けて少しずつ勉強しています。マレーシアでたくさんの方のことを考えて、感じて、これからの糧となるような経験ができればと思います。



北海道教区／^{おおまち くるみ}大町 包

私はアジア青年大会で3つのチャンスが与えられていると思います。

ひとつ目のチャンスは「出会いとつながり」です。私は教区的、管区的な青年活動を通して、多くのかけがえのない友人と出会いました。そのつながりは、私の教会生活の支えとなっています。私自身そのつながりをアジア、世界へと広げるチャンスが今回のアジア青年大会だと感じております。

二つ目のチャンスは「聖公会の理解を深める」ことです。宣教の5つの指標を中心に、実際の事例を通して私たちが属するアングリカン・コミュニオンへの理解を深めてきたいと思っています。

三つ目のチャンスは「知る、伝える」です。東南アジア諸国の青年がどのような問題と向き合い考えているのかを知ると共に、私たちが日本聖公会の向き合う問題を伝えることが求められていると思います。

その中でアイデンティティーを尊重しながら、意見交流ができればと思います。

また、私たちが向き合うべき問題点を見つけ、将来的展望を持ち、自分の信仰生活を見直すきっかけとなればと思っています。これらのチャンスを掴むため、準備を進めていきます。



東京教区／^{にいつま かな}新妻 夏奈

昨年、アジア青年大会に東京代表で参加しないかとのお誘いを受け、この大会に参加することは自分にとって大きな糧となるに違いないと思い参加を決意しました。

私は、英語で会話をするどころか海外に一度も行ったことがなく、不安や心配なことは沢山ありますが、大会では多くのことを学び、日本に帰ってきてからは学んだことを教区や教会に向けてどんどん発信していきたいと考えています。

また、この大会に参加することで教会という垣根を越え、多教区、多国籍の青年達とつながりを持ちたいです。まだまだ未熟者の私ですが、どうぞよろしく願いいたします。

U26 運営委員会より

U26 とは・・・

「知る・繋がる・教会の絆」をスローガンに、18歳から26歳までの聖公会に携わる青年が活動するグループです。年に1度「U26集会」を開き、全国各地から青年が集い、教会に対する想いを語ったり、共に祈る楽しさを感じたり、これからの教会生活を送る上での目標を見つけ、多くの仲間を作っていきます。



2015年度U26運営委員です。

来年開催される全国青年大会が、青年委員会とU26の共同開催になったため、全力で企画に取り組んでいます。

U26 ブログも随時更新中です！

全国各地の青年活動報告や全国青年大会などのお知らせ、各教区の催し物情報などを配信しています。

U26 で検索！



今後の予定

◆神戸・九州・沖縄教区 フィリピンワークキャンプ (フィリピン)

2016年2月22日(月)～29日(月)

◆アジア青年大会 (西マレーシア・クアラルンプール近郊)

2016年7月27日(水)～8月1日(月)

◆全国青年大会 (北海道)

2016年9月8日(木)～11日(日)

正職員募集

中部教区の下記宣教事業に関わる職員を募集しています。

◎名古屋学生青年センター (愛知県名古屋市)

◎愛知聖ルカセンター (愛知県尾張旭市)

- ◆フィリピンにルーツをもつ子どものための「国際子ども学校」の運営
- ◆新規事業の企画・運営
- ◆一般事務等

キリスト教精神に基づく当センター事業の目的や活動に共感できる方を募集しています。

興味のある方は、お気軽に下記へお問い合わせください。

名古屋学生青年センター (名古屋市昭和区宮東町 260) TEL: 052(781)0165 担当: 近澤

発行 **日本聖公会全国青年ネットワーク事務局**

愛知県名古屋市昭和区宮東町 260 TEL: 052-781-0165 FAX: 052-781-4334 E-MAIL: youth.po@nsskk.org